

「ひとを信頼しちゃ……。

……。

なんだようるさいなあ。

お母さん？ 別にご飯なんていらな……え？

……誰？

……あー、親戚の……何か用？

はあ？ 何であんたにそんな指図受けなきゃいけないわけ？

どこにしようが僕の勝手でしょ。ここ、僕んちだし。

部外者のあんたこそなに偉そうに。マジうざいんだけど……。

……うざいって言うてるの、聞こえない？ 耳ついてんの？

はあー……あーあーだるいだるい。

何なの？ 今まで僕の事なんてまったく気にかけてなかったくせに。

いいからとっとと消えてくれる？ 耳障りだから。

……、……あつそ。勝手にすれば？ 僕、ヘッドホンつけるから。

何言っても無駄だから、聞こえないから、じゃーねー。

……。

……。

………ねえ、無駄って言うてるのになんで話しかけてくるわけ？

マジきもいって言うか、もはや怖いんだけど。

そうやってれば僕がこのドアを開けるとでも思ってるの？ へえー。

……ばつつつかじゃないの？ ばーか、ばーか。きつも。きつしよ。

あんた、嫌われ者でしょ？ 絶対友達とかにうざがられてるよ。

だって話してて分かるもん。

あのね、そうやって心配してる風にごちゃごちゃ言われるの、

僕いっちゃん嫌なんだよね。何様？ って感じだしさ、

ひとの心配してるほど自分は余裕かましてるわけ？ 傲慢だなあ。

……自分の価値観を他人に押し付けるなよ。

僕じゃないあんたが、僕の何を分かっての？ ねえ？ 教えてよ。

……。………なんですか。なんでここまで言っても引き下がらないの。

……そろそろさ、本当の理由を教えてくれないかな。

お母さんに頼まれたの？ それともお父さん？ 誰の差し金？

だって、おかしいじゃん。お兄さんが自分の意思でさ、僕を……ありえない。

分かってんだよ？ 引きこもりを無理やり引っ張り出せとかなんとか、

そういう事言われたんでしょ。知ってっし。僕、知ってっし。

……違うの？ ……ふうん。

あんた、嘘だけはうまいね。唯一の取り柄だね。人狼とか強そう。

……あのさあ。

その「嘘じゃないよ」って言葉ほど無意味な情報はないと思うんだけど。

どうやって証明するの？

お兄さん、自分の言葉を嘘じゃないって立証できるの？

そんな事は神様にだって出来っこないんだよ。

残念だったねー。僕はひとを信用してないんだよ。友達も、家族も。

……ともだちなんて、いないけどサ……。

いや、何でもないよ。

……あ？ なに？

引きこもりの理由なんて……それがあんたに何の関係があるっての。

……。黙ってくれるかな。別に……話せないような事じゃないよ。

ただあんたには話したくないだけ。

不愉快なんだよ。……何がって、全部だよ、あんたの全部！

あんたみたいにパーソナルスペースにずかずか上がり込んでくるひと。

正義のヒーローみたいにきれいごと並べて説教するひと。

まるで自分が世界でいちばん正しいような物言いだし………気に入らない。

あんたは僕にとって……道路に引っ付いた古いガムだよ。

見るだけで不快、触りたくない。踏んづけられしっこくつついてくる。

薄汚い………何の説得力もない………吐き捨てられたガムだ。

………なに？ 今度はどんな呪文をつぶやくつもり？

？ なんだよ………声が小さくて聞こえない。何が言いたんだよ。

い……？ い……じ……め？

……いじめられて引きこもってるって、そう言いたいわけ……？
あんた、は……さ、……何のつもり？

僕を傷つけたいの？ 僕をいたぶりたいの？

ああそっか、だからそうやって……ば、僕に……付きまとうんだ。

ああ、はは……ははは。そう、そうなん……だ……納得いったよ……。

心配なくて……いいよ。トドメなら、今、差されたから……あはは……。

だからさ、もう、帰ってくれないかな。お願いだから……。

……帰れよ。……帰れッ！

……ぐすっ……。

何なんだよッ。これ以上僕を痛めつけて……どうするんだよ。

ッ……まだやさしさとかなんとかほざいてんのか！

やさしくする人間の言葉じゃないよ、あんたのそれは！

あんただってどうせ、する側に立ってる奴だ。

弱い誰かを傷つける為にッ、正当性って優越感を得る為に！

そうだろ！

だってあんたは……まだ、そこに……立ってんだ。

キツい問いかけは、僕を怒らせただけだろ。そうやって楽しんでんだろ！

最低だよ最悪だよ最上級にくそったれな野郎だ！

今だってあんたは……声も、足も、きつと表情だって、ずっと変わらない。

ずっと……穏やかで……静かで……。

……。

すう。はあ。

あんたのその……意味不明な執念は……その真意はどこにあるの。

本当に……僕を……心配してくれてるの？

本当に……。

……はっ。

ダメだダメだ……ひとを信頼しちゃ……。……どうせ……。

とにかく……。

ふう……。

ん……えっ？ 行っちゃうの？ ……あ、ああ……晩御飯……ね。

あっや、そ、そう。あーせいせいした。ほんとう良かったなあ。

は？ 僕？ 行くわけないだろ。別にお腹なんか空いてねえから。

とにかく、もう来ないでね。

あんたの声なんか聞きたくないし、癪に障るんだよ。

……来るなよ。絶対来るなよ！ 分かった？

はい。約束。嘘ついたら針百億本飲ませてやるからな。

じゃ、……ばいばい。

…だから、ほんとに少しだけ。

……誰？ ご飯はいらなんて言って――

って、まああんたか……！ もう来るなつつただろ！？

鳥頭かったの！

チッ。舐めやがって……。あのね、僕は約束は守る主義だから……。

針。まさかそれも忘れちゃった？

？ なにさ。……はあ、針百億本も持っていないとか、当たり前じゃん。

馬鹿なの？ ああそうか、馬鹿だったね。

仕方ないな。じゃあ今すぐ用意してあげ……あつ。

そっか、そういう事か。そうやって僕を部屋からおびき出そうとしてんだ。

危ない危ない。策士だね、あんた……危うく引つかかるところだ。

フン。こんな時間までご苦労なこったね。

あんた、絶対時間を無駄にしてるよ。僕なんかの相手して本当もったいない。

……暇なの？

だから、引きこもりの僕と話すしかする事がないくらい暇かって聞いてんの。

ばあか。

あつ。あんた、ひょっとして……アレ？ アレなの？

言う必要ないけどさ、僕……男だよ？ 分かってるでしょ？

……へえー、そう。そうなんだ。あんた、やっぱりアレなんだね。

それなら納得だよ。どうしてそんなに必死に呼びかけてくるのか……ふふっ。

マジきつもちい。軽蔑するよ。生理的にムリムリ。ほんとムリ。

まあ確かに？ 僕ってそういうひとにさ、絡まれる事が結構多いからね。

あいつらほんと……下半身に脳ミソがついてんじゃないの？

ひとの事じろじろやらしい目で見やがってさあ。

からかってやったら、みんな本気にしてやがんの。

寝ぼけてんじゃない？ って感じ。

あんたもさ、そうなんでしょ？

ね♪ お・に・い・さ・ん♪

ぶはッ、あはははっ！ きもすぎっ！ 何動揺してんの？ マジひくわあ。

え、なに？ 本当にそうなの？ ねえねえ、そうなの？ うっわうっわ。

おにーいさん♪

ぷつくく……ちよつと笑わせないで。クエスト失敗しちゃったじゃん。

あー面白。きも面白いね、あんた。ちよつとだけ興味持っちゃったよ。

その他大勢のくさくさいモブガキとかオッサンと違って……うん、特別。

そう、特別だ。つまりそいつらより馬鹿って事！ あんた本当に馬鹿！

あはははっ。

ん？ ここ、開けてほしいの？

ダメだよ、開けるもんか。

だってあんた、開けたら僕の事を襲っちゃうでしょ？ ふつくく……。

……でもね、カギはついてないんだよ、それ。

開けようと思えばいつでも出来るんだ。びっくりした？

ほら、開けていいよ？ 僕は絶対しないけど、あんたがしたいならどうぞ。

開けないの？

……へえ。あつそう。……まあ、好きにすればいいけどさ。

チッ……はあ、つまんないの。本当はもちろん施錠してありますよ。

息荒くしながら思い切り開こうとしてガチャガチャ鳴らしながら焦るサマ、

見ようと思ったんだけどなあ……。

えっ。……分かったの？ ……そう、そうなんだ。

……え？ あ、え……？

何だよ、急に。よく分かったね、僕が「くもくもくもいんぐ」やってるの。

うん、最近出たソシャゲ……そうだよ、無課金だよ。

親の同意がないとお金使えないし……。

え？ なんかやたら詳しくない？ え、なに、まさかあんたもやってるの？

へえ。あ……無課金なんだ？ ……ぷっ、貧乏だね。

え、ちがうのー？ ……お、よく分かってるじゃん。

そうそう、自由度が売りなんだよこのソシャゲ。

無課金でどこまで頑張れるかってのが醍醐味なんだよね。

ほら、現実ってなんでもお金で押し通せばなんとかなるもんじゃん？

ゲームの世界もそれって面白みのカケラもないんだよねー。

架空の世界でくらいさ……素っ裸の自分で頑張ってみようって……

みんな思わないのかな。

他のゲームだってそうだよ。

強キャラを使ってバカ勝ちして、まあゲームは勝ちたいもんだけどね、

性能で勝つのがそんなに楽しいのかなあって思う。

自分の技量で他人をなぎ倒す方がよっぽど……快感だよ。僕はね。

……おお、そっか。あんたもそうなんだ。えへへ……なんかうれしい。

あつ。い、いやいや、そんなんじゃないよ。

だってずっとここに居るから……誰かに共感されるのあんまり経験なくて。

……うるっさいなあ、もうっ。しつこいんだってば！

だから、ほんとに……少しいだけ。うれしかったんだよ……。

……あほが。

あんまり調子乗ってるとぶつとばすよ。……マジで。

いや開けないよ。ドアは開けやしない。

でもね、あんたを滅多打ちにできる方法がひとつあるんだ。

「くもくもくもいんぐ」、これ対戦プレイできるの知ってるでしょ？

アプリ起動して。ほら早く。E 教えるからフレ申請してよ。

ぼっこぼこにしてやんだから……音を上げるまで寝かせないぞ。
あ？ 何だよスマホ置いてきたって！ ほんとドンくさいなあお兄さん！
あっ違っ……あんた、ほんとドジだな。

待っててあげるから、取ってきなよ！ はよはよ！ ダッシュ！

……。

……はあ……。

…………お兄さん…………♪（小声）

☹報告しなくていいよバカ。

……。んにえー？ ……あー、あんたかー……。

うううるさあゝい……今何時だと思って……。

まだ十時じゃん……僕の活動時間は午後三時からだよ……常識でしょ。

ふああゝゝ……。

……うわ、まぶし。こんな良い天気なのにさあ……僕とお話しに来たの？

はあ、やれやれだね、もう。まあ、あんたはアレだもんね。仕方ないなあ。

え？ ……いらないよ。毎回毎回さ、それ聞かなくてよくない？

別に餓死なんかないし。僕、そんな貧弱じゃないんですけど？

……冷蔵庫にね、僕の分がいつも入ってるの。それ食べてるからへーきな。

はー？ いやいやいや、ずっと部屋にいるわけじゃないじゃんさ。

そんなのただのひきこも……いや、引きこもりだけどね、

地縛霊じゃないんだから、部屋から出る事はあるって。

だって、トイレどうすんのトイレ。さすがにボトラーじゃない僕。

そこまで人間捨ててないよ。ギリギリヒューマンだから。

……え？ ……そうかな。そんなにべらべら喋ってる？

あー、まあ、うん。話し相手なんて久々っていうか、

……久々とかいう次元じゃないな。

喋ってるよきの僕、こんな声だったってレベルかも……うん。

えっ？ ちょっ！ そんなの親に報告しなくていいよバカ！

ガキか、あんたはガキか！ 嬉しいからってそんな小さい事をさ、
いちいち言いに行かなくていいっての！

はあ。あんたと話していると疲れるよまったく。ほんとにもう。

言っとくけどね、そんなに粘ったってドアは開けないから。

毎日通おうがどんだけ声をかけようがっ。

あんたには顔を見せるつもりないからっ。いい？

…………むう……。

……あんた、ふだんは何してんの？

ほら、今はあれでしょ。休暇なんかでうちに来てるんでしょ。

あんた何歳だっけ？ ……ほーん。当たり前だけど、年上なんだねえ。

え、な、なにその質問。そりゃま、年下とか同年よりは……

年上の方が……うん。……すぎだけど。（小声）

って僕の質問に答えろよっ。いつもは何してんのって話。

……、……へーそうなんだ。ごめん、全然興味ないや。

ふふ、すごいって言ってほしかった？ はいはいすごいすごい。

ぱちぱちぱちぱち。

何だよ、文句ある？ 悔しかったらこのドア開けてみなよ、ほらほら。

ぷぷっ。悔しそうな声……はあゝあんたほんと面白いねえ。

で、どこ住んでんだっけ？ ……ふうん。……遠いな。（小声）

ねえねえ、スマホの番号教えてよ。……あ？ 何キモい事言ってるの。

だってあんた、実家帰っちゃったらソシャゲの対戦出来ないじゃん。

あのゲーム、メッセージとか送れないし。だからいいでしょ？ ほら早く。

……。……はい、おっけー。登録登録、と……あつ。

そういえば名前も聞いてなかった気がするね。ついでに教えて？

……あ、苗字……違うんだ？ ……へえー、割と遠縁のひとだったんだね。

あー、名前はー、うん、カッコイイトオモウヨー。アンタニピッタリダー。

……クスクスッ。もおゝどこまでからかい甲斐があるのさ、

悲しいピエロだなあ。

……。

ねえ。僕のは……どう思う？ 咲雪って名前。……変じゃない？
僕は嫌いだよ、自分の。

だってさ、女の子みたいじゃないか。生まれた日に雪が降ってたからなんとか、お母さんに聞いた事あるけど。「えっ、天候の気分でつけちゃったの!？」
って思った記憶があつて……。いい迷惑だよね……。

ふえ？ ……あ……、……そ、そっか。まあ……お世辞でも嬉しいよ。

でもあんた、僕の顔おぼえてんの？ 顔によく似合ってるって言うけど、
もう何年も顔合わせてないでしょ。適当こいてんじゃないの？

……そう……覚えててくれたんだ……ね……♪

…………………キモッ。キモキモキモッ！

そんなに僕の顔が頭から離れなかったの？

数年前に一度会っただけだったのに？ うっわドン引き！

僕はあんたの顔なんて一ミリたりとも覚えてなかったよ。

なのに、うわあ、うわあ。

あんたガチでマジで本気できしよいからも喋らない方がいいよ。

一挙手一投足のたんび株価大暴落してるじゃん。完全に破綻だね、かわいそ。

……なんて、ククッ。あははっ。みたび引つかかったねえ、だっせえの。

あはははは！ リアクション芸人でも目指したらどう？

笑わすより笑われる方の芸人としてブレイクしちゃうかもよ？ ふふっ。

ごめんね。僕、嘘つきだから。

どれが嘘で本当か分からないでしょ？ 混乱しちゃうでしょ？

これが僕、咲雪。黒崎咲雪という人間だよ。いい加減、分かったかな？

へ？ ……。

いや、あんたの顔を忘れてたつてのは、……う、うそじゃない、よ。

違うから。ほんと違うから。嘘じゃないから。それだけマジだから。

だからそんな嬉しそうな声出すな！ 今絶対ニヤニヤしてるだろあんた！

やめるやめる変な勘違いで犬みたいにはしゃいでんじゃねえ！ きつmoi！

きつmoiいから！ もう離れる、どっか行っちゃまえ！ この部屋近づくな！

……えっ、あ、う、うそ、うそうそうそ。本当にいなくならないでいいから。

今のも嘘だから。……あれ？ うそ、で、どれがうそだっけ……？

ああああもお分からなくなっちゃったよ……。

もう、めんどくさいから今日の発言は全部嘘って事で！ いいかな!？

えっ。い、いいんだ？ なんでそんなあっさり……んん？ 何か変だな。

なんだろ……？

♪そこにいるのは違うひと……？

……ホラー映画じゃないんだからさ、こんな深夜にノックとかやめてくれる？

びっくりしちゃうじゃん。……そんなに僕と話すのが好きなの？ ねえ。

時計見なよ、二時だよ二時。まあ僕にとっては日常だけどさ、

ちよつとは常識つてものを考えて――

ん……？ どうしたの。なんで黙ってんのあんた。ねえ、ちよつと。

あ、まさか怒ってんの……？

昼間にかかった事、根に持ってたのかな？ あんなの軽い冗談じゃん。

……。お、おい、何か言つてよ。

……。

え、……。……あ、えつと、……お、お兄さん……だよね？ ね？

ひっ！ だ、だれ！ 誰なの!？ ま、まままさかおぼっおぼ……。ハッ。そ、そうか。またあれだ。あんたお得意の引っ掛け作戦でしょ。

僕を脅かしてこのドアを開けさせようって魂胆だね。

ちよつとビビったけど、タネが割れればどうって事ないコケ脅しだよ。

もう効果ないよ。だから早くいつもの声聞かせてよ。

……ね、ねえ、もうネタバレしてんだよ？ つづけても意味ないよ？

だから、ほら――

ひゃうっ！ ……お、おお、おにいさーん……？ なにしてんの……？

え、ええ……？ お兄さんじゃないの……？

あ、あああつ……やだっ、ど、どどどうしよう……どうしよう。

そ、そうだ。お兄さんのスマホに電話かければいいんだっ。えとえとえと……

……、……、……、……、……。なんで出ないんだよつ。コールはするのにつ。

なんだよなんだよお。そういうのが起きる家じゃないだろ、ここおつ。

ツ！
……また、ノックした……。○

はあああああつ……よかつた……よかつたあ。

僕からの着信で目え覚めちゃった？　ご、ごめんね。えっとその、あのね。

あと一歩でたぶん僕死んでた！

$$\begin{array}{c} \cdots \\ \vdots \\ \cdots \end{array} \begin{array}{c} \wedge \\ ? \end{array} \begin{array}{c} \cdots \\ \vdots \\ \cdots \end{array} \circ$$

……ねえ、あんた。マジでぶっ殺されたいの……？

……ああ、もう怒る気もないや。なんか、うん……安心しちゃったから。

からかいすぎたって事でしょ、僕が。……ごめんなさい。これでいい？

僕の方がたくさんたくさんお兄さんを打ち負かしてんだから。

ふふ。今日はどんな悪戯を仕掛けてやろうか、な……、……？

あはは……そっか。そうだね、忙しいもんね。分かってるよ。

って、そんな時間じゃないんだけどさ。あははは。

⑤ 最後の最後で――

お兄さん、何時に出発するの。……ふうん。もうすぐじゃない。

まあ、別にどうでもいいけどねー。

たのしいたのしい日常がく戻ってくる。

$$\begin{matrix} \bullet \\ \bullet \\ \bullet \\ \bullet \\ \bullet \\ \circ \end{matrix}$$

……お兄さん。

僕、学校でいじめられてるんだ。

それで突っかかってくる奴らがいてね。

今は友達もいないよ。

最初からぼっちだったわけじゃないんだけど。

でもね、誰かに劣ってるのがすごくイヤで、負けず嫌いだから、

……それに、ひとの事を見下したりして、すぐに嫌われちゃうの。

だからさ、ほら、お兄さんの事をからかったりしたじゃん。ああいうの、

いじめを黙認したり逆に加担したりするような先生とか、

色んなひとにやってたら、生意気だつてハブられたり無視されたり。

悔しくてさ、見返してやろうって何度もあいつらを罠にハマてさ。

容姿の事でちよつかいかけてくる連中と、そうやって作っていった敵がね、

たくさんいるから……クラスどころか学校中に嫌われちゃって。

で、今に至るって感じ。不登校でも誰も心配しないし、むしろ爽快かな。

お母さんもお父さんも諦めてるもん。僕はもう外に出ないんだ。

二人は怒らないんだ。ご飯も……いつも作ってくれるし……。

でも、それは優しさじゃないって勝手に思ってる。うまく言えないんだけど。

……僕、子どもが嫌い。僕より頭が悪い奴はみんな嫌い。

みんな僕の苦しみも何も理解してくれない。いや、理解できないんだよ。

そういう考えはあいつらの頭の巡りの外なんだ。……馬鹿だから。

……でもさ。僕が見てきた世界はまだ学校だけだけど。

この世は、そういう人間の方が生きてて楽しいし、

皆から頼られる……言うならさ、「有能な奴」なんでしょ……？

お兄さんは僕よりたくさん生きてるから分かるでしょ？ 知ってんでしょ？

……ねえ、お兄さん。

僕……お兄さんが好き。大好き。

もう帰っちゃうなんて嫌だ。嫌だよ。ずっとここにいてほしいよ。

両親にさえ見捨てられた僕を……説得してくれて、嬉しかった。

今だって、そこに立ってる……。僕の為に……立ってる。

どうして……？

こんなに話しても、お兄さんの事がまったく分からないんだよ……。

優しくて、怖くて、慰めも怒りもくれるの、どうしてなの……？

……、……ッ……。

ぐすっ……ひう……。もお、お兄さん……おれは……男だよ……？

魅力もない、才能も……可愛げも何もない、

男にも女にも見える中途半端な……出来損ないのクズ野郎だよ……。

ううっ……好き、好きいっ。お兄さん好きっ。好き好き好きっ……。

また、叱ってください……咲雪の事、思いきり叱って……お願い。

……ああ……。

ん……その優しい怒りが、僕、大好き。

全力を向けてくれるのが分かるから。

ドア一枚隔てたって、それが伝わってくるから……。

ふふっ。誰だってさ、自分の生き方を否定されるのはイヤだろうけど、

大好きなひとが心からかけてくれる言葉だったら……変わろうって、思える。

すぐじゃ無理かもしれないけど、でも少し……少しずつなら、

きっと変わるよね。遅すぎるなんて事はないよね。

……うん♪ ありがとう、お兄さん……♪

……。

もう、行っちゃうの？

また来てね？ 絶対来てね？

そうだ、こんど電話していいかな。迷惑じゃない？

そっか……よかった♪

えへ……遠くにいても、お兄さんの声が聴けるなんて最高ハッピーだね♪

この数日間、本当に……楽しかった。とつてもとつても……楽しかったよ。

……じゃあ、また、ね……。

……。

お兄さんっ！

……べっ。最後の最後で、負けちゃった♪

お兄さん……♪ 大好き……♪

(終)